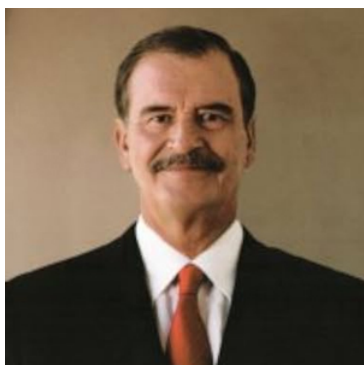


VICENTE FOX

President of Mexico (2000 – 2006)

LONDON
SPEAKER
BUREAU



ビセンテ・フォックスはメキシコの実業家で、2000年から2006年まで国民行動党「PAN」の下でメキシコ大統領を務めた。また、キリスト教民主政党的国際組織であるセントリスト・デモクラット・インターナショナルの共同議長も務めている。

2000年にメキシコ大統領に選出されたビセンテ・フォックスは、70年にわたって政権を握っていた制度的革命党の締め付けを打破しました。カリスマ的な改革者であるフォックス大統領は、メキシコの民主化と経済強化に重要な役割を果たしたとされています。在任中、彼はインフレと金利を抑制し、ラテンアメリカ全体で最も低い失業率を達成することに成功しました。

フォックスは著書「希望の革命」で、南北アメリカ大陸の未来に対する新たな希望のビジョンを描いています。移民、イラク戦争、人種差別、グローバリゼーション、国連の役割、自由貿易、宗教、男女平等、先住民の権利、健康に対する道徳的義務、富裕国と貧困国の世界的な格差など、世界的に注目されている話題について力強く発言しています。メキシコに真の民主主義をもたらした人物による「希望の革命」は、勝利の個人的な物語であり、未来に対する政治的ビジョンです。

フォックスは9人兄弟の2番目で、幼少期のほとんどをグアナファトにある父親の牧場で過ごしました。メキシコシティのイベロアメリカ大学で学び、ハーバード大学ビジネススクールのコースを受講した後、社会人となり、1964年にコカコーラカンパニーでトラックの運転手として働き始めました。すぐに昇進し、間もなくコカコーラのメキシコおよびラテンアメリカ担当社長に任命された最年少の幹部となりました。フォックスの指揮下で、コカコーラはペプシを抜いてメキシコで最も売れているソフトドリンクとなりました。

フォックス氏は2006年12月に大統領職を退任して以来、ナイジェリア、アイルランド、カナダ、米国などの国々で、物議を醸した2006年の選挙やイラク戦争などの話題について講演し、世間の注目を集めてきた。メキシコでは、フォックス氏の大統領退任後の多忙さが、メキシコの元大統領は政治の注目を浴びないことを期待されていたため、多くの批判を招いた。しかし、フォックス氏は「権威主義の過去にまだ生きている人々の反民主的なルールに固執する理由はない...メキシコは今や民主主義であり、すべての国民は、元大統領であっても、自己表現する権利がある」と述べた。

Topics

- Globalisation
- Government
- Leadership
- Politics
- Strategy